

ナガバノイシモチソウ *Drosera toyoakensis* M.Watanabe et Seriz.

【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 2、固有性階級 4、総点 17。本地域に固有の食虫植物。湧水湿地に生育するが、減少傾向が著しい。

【形態】

食虫性の 1 年生草本。高さ 7~20cm になる。葉は互生し、狭線形、長さ 4~7cm、幅 1~2.5mm、先は細く糸状になり、表面に昆虫類を捕らえるための長腺毛が多い。若葉はぜんまい状に巻く。花期は 7~8 月、葉に対生して長さ 5~10cm の総状花序を出し、3~10 個の淡紅色の花をつける。花弁は 5 枚、長楕円形で長さ 6~8mm である。花の白いものは、シロバナナガバノイシモチソウとして区別し、前頁で記述した。シロバナナガバノイシモチソウを区別した場合、狭義のナガバノイシモチソウは国レベルでも絶滅危惧 I A 類になるはずである。

【分布の概要】

【県内の分布】

比較的最近では、東：15 豊橋北部 (芹沢 53543, 1989-9-25)、16 豊橋南部 (芹沢 53558, 1989-9-25)、尾：39b 豊明 (渡邊幹男 2014-11, 2014-7-17) の 3 区画で確認されている。ただし、豊橋南部は、かつて自生していたことは確実であるが、最近確認されたものは播種起源の可能性が高い。豊明については、現在の生育状況の項を参照されたい。50 名古屋北部 (田代村, 牧野富太郎 s.n., 採集日不明, TI) で採集された標本もある。

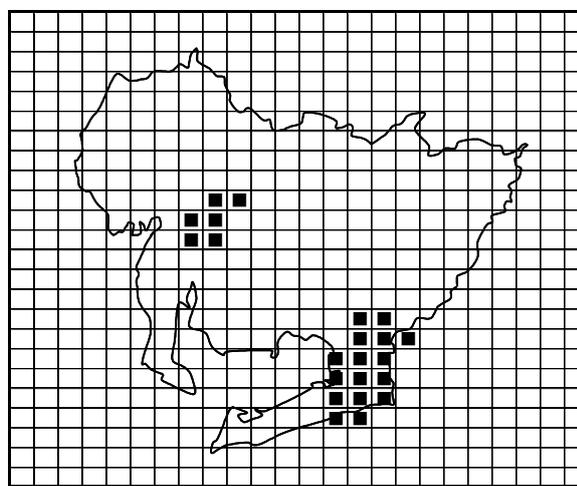
【国内の分布】

本州中部 (愛知県、三重県)。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

湧水湿地の、半裸地状の場所に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地		○		
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

本種の場合、以前は開発により次々と生育地が失われた。例えば名古屋市の滝ノ水湿地は宅地造成で破壊され、豊明市にあった大規模な生育地は養豚場ができて消滅した。しかし現在では、本種の重要性はそれなりに認識されており、むしろ過剰保護が懸念される状態になっている。豊明市に残存する自生地は県の天然記念物に指定されているが、水脈が切れて給水が必要なだけでなく、組織培養個体の植栽など極度の人為的管理のため本来の自然状態が失われるに至った。現在では遺伝子レベルでの分析に基づいて植込由来個体が除去され、その一方で埋土種子集団からの個体群復元も行われて、自然状態の回復が図られている。また、本種については一部の人間による自然湿地への播種があちこちで行われており、どこまでが真の自然分布かもよくわからなくなっている。このような付け加えは、その場所の本来の自然に悪影響を与え、自然環境情報に混乱をもたらすだけでなく、残存する個体群がある場合は遺伝的攪乱や病虫害をまねき、「最後のとどめ」になってしまうこともある。本来ないものは、「ない」のが自然の状態であることを認識する必要がある。

【保全上の留意点】

前項参照。どうしても野外で播種による系統保存を行う必要がある場合には、公的機関の手で、十分な事前調査と管理のもとに行うべきである。

【特記事項】

彩色画は、2009 年版図版 3 に掲載されている。県条例に基づく指定希少野生動物植物種、また「豊明市のナガバノイシモチソウ」として県の天然記念物に指定されている。

【関連文献】

保草本 II p.167, 平草本 II p.12, 平新版 4 p.107, 環境省 p.424, SOS 旧版 p.53+図版 19.